

4. 時系列分析

審議会議事録テキストデータの概要を把握した次のアプローチとして、問題意識に基づくコーディングルールを作成する。コーディングを分析することは、分析手法における一つのプロセスでしかないが、分析者自らの社会的又は言語的な想像力が発揮されるべき極めて重要な作業である。しかし、同じテキストデータに向かう場合でも、分析者の有する理論仮説や研究目的が異なれば、当然それに沿って異なるコーディングルールが作成されることになる。そこで本研究は、コーディングルールを作成する際、審議会議事録内容と比較した上で、テーマや論点をカテゴリに分類する。

先ず議事録内容の比較を行っていくために、特定のテーマや論点に言及した内容とそうでない内容とを分類するというコーディング作業を行う。この作業によって、分類結果すなわちコーディング結果を数え上げ、審議会の各段階ごとに比較を行うことが可能となる。たばこ政策に関するテーマや論点を分類した先行研究を見出すことができなかったため、クラスター分析で求めたデンドログラムを解釈して、コーディングルールを作成する。

コーディングルールを作成する目的は、一つ一つの言葉というより、むしろ事柄・概念・カテゴリというものの出現数を集計して審議内容の構造を解釈することにある。例えば、未成年者喫煙防止を目的とした成人識別自動販売機及びタスポの導入は、「自販機」や「タスポ」、「カード」を『自動販売機対策』という事柄で数え上げたいわけである。このためには、次のようなコーディングルールを作成することとなる。

【例】＊自動販売機対策

成人 or 識別 or (成人+識別) or 未成年 or 未成年+防止 or 自販機 or
タスポ or カード or タスポ+カード or TASPO

このコーディングルールを KH Coder に読み込ませることで、「成人」、「タスポ」、「未成年者防止」といった発言内容が含まれる文章や段落に、『自動販売機対策』というコードを与える。これにより、各コードの出現数や割合といったことを調べることが可能となる。

ここでは、たばこ審議会議事録内容と対応分析の結果とクラスター分析の結果を相互に解釈した上で、下の5つをテーマや論点に分類してコーディングルールを作成した。その5つのテーマや論点は、「未成年者」、「自動販売機」、「流通」、「広告」である。前述のように、たばこ審議会議事録内容に対してテーマや論点を見出すため、品詞として名詞の他にサ変名詞も含めたクラスター分析を行った。各委員が発言する際、一つの状態としての概念や事柄を発していると考えた。その上で、コーディングルールを作成する際に概念や事柄を集計するため、同様に名詞及びサ変名詞のみで委員の発言にコードを組んだ。

以上クラスター分析結果と審議会議事録の発言内容とから、5つのテーマや論点に分類し、コーディングルールを作成した¹²。作成したコーディングルールの一覧と、コーディングのために用いた言葉、そして KHCoder が実際のコーディングを行った結果を下表に示す。コーディング結果については、各コードが与えられた発言数と、その割合を示した。なお

¹² 本研究で用いたコーディングルール・ファイルは資料 D として添付した。

コーディングルールで KH Coder を通した集計する際、注意する点がある。それは、複数のコーディングルールが一つの発言に当てはまる場合、KH Coder は一つの発言に対して複数のコードを与えることになる。つまり、一つ一つの発言をカテゴリのコードで排他的に分類することができない欠点がある。

表1 コーディング結果

コード名	発言数	割合	コードの主な語
「自動販売機」	20	12.2%	自販機、識別、成人、導入、カード、タスポ
「広告」	24	14.6%	広告、注意、警告、デザイン、メディア、広報
「流通」	44	26.8%	流通、許可、距離、制限、小売
「未成年者」	17	10.4%	青少年、アクセス、喫煙+防止、未成年
「たばこ規制枠組条約」	13	7.9%	条約、枠組、たばこ+条約、ガイドライン
#コード無し	46	28.0%	

たばこ事業等分科会において、各コードがどれだけ出現したかの度数と委員が発言した全体に対する割合を示した表である。「コード無し」を除くそれぞれコードが出現した度数を見ると、「流通」に言及した発言が 44 ともっとも多く、次いで「広告」が 24、「自動販売機」が 20 であった。また「コード無し」という視点から見ると、28.0%である。これは、作成したコーディングルールでは、7 割強しか審議過程について説明ができなかったということである。確かに、審議会特に分科会では、「僭越ですけれども、私の方から口火を切らせていただきたいと思います。¹³⁾」や、「賛成。¹⁴⁾」といったように、議論と直接関係のない挨拶や議事をまとめる発言内容も含まれるが、今後審議過程を説明する上でもコーディングルールを見直す必要があるだろう。

ここまで分析してきたコーディングの単純集計結果、それも排他的なコーディングを行わない場合、それぞれのコードに関連する複数のコードも含まれる。クラスター分析の結果でも、「流通」と「自動販売機」又は「広告」と「未成年者」といった、それぞれのコードが合わさって大きな視点から一つのクラスターを形成し論点やテーマを構成してきたことを考えれば、それぞれのコードがある委員の発言に与えられることも推測されるそれゆえ、発言内容を原文にさかのぼって検討する注意深い作業が必要とされる。それぞれのコード間の特徴及びコード間の関連の強さを測定した結果を表 2 に示した。ここでは、データ全体での各コード間の関連を Jaccard の類似性測度を用いて測定した。Jaccard の類似性測度は、0 から 1 までの値をとり、二つのコードが共に一つの発言内容に与えられる確率が高いほど、その値は 1 に近づく測度である。なお、紙面上の関係で、コード名を「自動販売機」は「自販機」と、「たばこ規制枠組条約」は「たばこ条約」と変更した。

¹³⁾ 分科会第 9 回: J 委員より

¹⁴⁾ 部会第 13 回: H 委員より (緊急開催により持ち回りにて審議された)

表2 コーディング間の類似度行列

	「自販機」	「広告」	「流通」	「未成年者」	「たばこ条約」
「自販機」	1	0.189	0.255	0.233	0.065
「広告」	0.189	1	0.214	0.206	0.321
「流通」	0.255	0.214	1	0.173	0.14
「未成年者」	0.233	0.206	0.173	1	0.154
「たばこ条約」	0.065	0.321	0.14	0.154	1

表2のコーディング間の類似度行列を見ると、「広告」と「たばこ規制枠組条約」との関連が.321と非常に強く、条約をめぐる論点として「広告」が際立ったテーマだったことが分かる。次いで「自動販売機」と「流通」との関連は.255と高い値である。逆に、「自動販売機」と「たばこ規制枠組条約」との関連は.065と最も低く、次いで「流通」と「たばこ規制枠組条約」との関連は.14と低い値である。「たばこ規制枠組条約」と「広告」に関する問題とは同様な論点で議論が進められたと考える一方、「たばこ規制枠組条約」と「自動販売機」とは別の論点で議論が進められたことが明確に浮かび上がってくる。ここに日本におけるたばこ規制枠組み条約の特異性が浮かび上がってくる。

以上、たばこ事業等分科会全体をテーマや論点について出現回数と割合、並びにそれぞれコードがどれだけ類似したかとを明らかにした。次に、テーマや論点の変遷を時系列で明確にする。作成したコーディングルールに従い、審議会を重ねるごとにテーマや論点がどのように変化してきたかを明らかにする。表3ではたばこ事業等分科会について、5つのテーマや論点として分類したコーディングルールに基づき委員の発言単位で、審議会開催ごとに集計した。ある委員がコーディングルールに従う発言をすると、その委員の発言をあるテーマや論点のコードとして認識し、委員が発言したテーマや論点の回数と各審議会の総発言回数に対する割合とを分科会について審議会ごとに集計した。表3の横軸は審議会開催回を表し、縦軸はコーディングルールに従う、5つのテーマや論点別に分類したコード名である。表のセル内は、各審議会中でコーディングルールに基づいて出現したテーマや論点である各コードの出現した回数を集めて合計した数と、その出現度数を各審議会中で委員が発言した総回数で除した割合とである。最終列には、各コードの出現回数、割合の合計値である。

たばこ事業等分科会では、分科会の下に部会が存在した。部会は、平成13年2月9日から平成16年1月30日まで、分科会における第2回から第7回までの間に、全23回にわたり開催されていた。「枠組み条約」に伴う議論とともに、「塩の輸入自由化」も集中審議する必要があったため、分科会の下に2部会制を取っていた。第7回で「塩」に関して一応の目安が付き、「分科会」一本化で議論する方向に進んだ。そこで、第1回から7回までの「分科会」は2事業部会に実質的な議論をゆだねたこと、第8回から実質的な議論を分

科会自身がになったことを念頭に置き、分析を進めることにする。

表3 20回の分科会における5テーマの出現回数

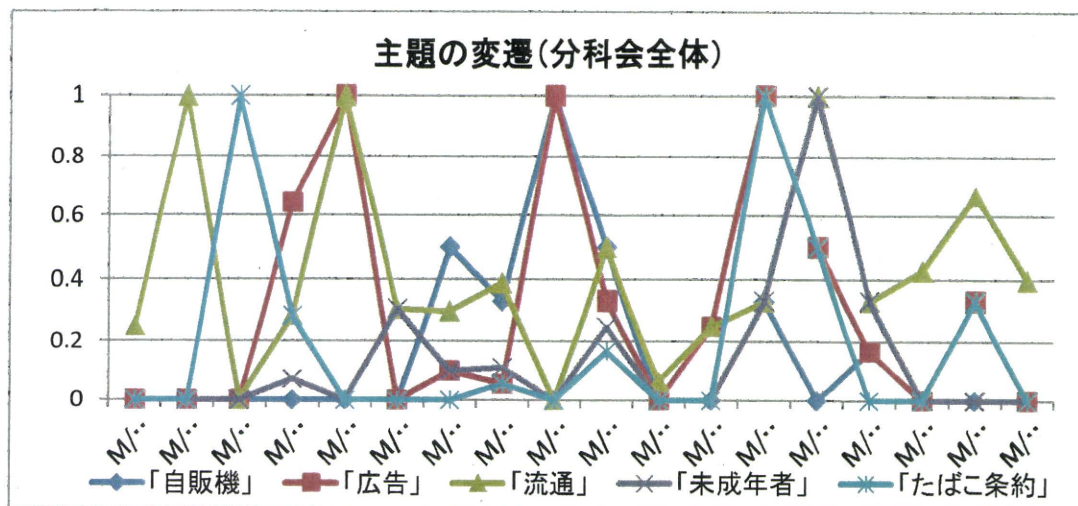
	1		2		4		6		7		8	
「自販機」	0	(0.00%)	0	(0.00%)	0	(0.00%)	0	(0.00%)	0	(0.00%)	0	(0.00%)
「広告」	0	(0.00%)	0	(0.00%)	0	(0.00%)	9	(64.29%)	1	(100.00%)	0	(0.00%)
「流通」	3	(25.00%)	1	(100.00%)	0	(0.00%)	4	(28.57%)	1	(100.00%)	4	(30.77%)
「未成年者」	0	(0.00%)	0	(0.00%)	0	(0.00%)	1	(7.14%)	0	(0.00%)	4	(30.77%)
「たばこ 条約」	0	(0.00%)	0	(0.00%)	1	(100.00%)	4	(28.57%)	0	(0.00%)	0	(0.00%)

	9		10		11		12		13		14	
「自販機」	5	(50.00%)	6	(33.33%)	1	(100.00%)	6	(50.00%)	0	(0.00%)	0	(0.00%)
「広告」	1	(10.00%)	1	(5.56%)	1	(100.00%)	4	(33.33%)	0	(0.00%)	1	(25.00%)
「流通」	3	(30.00%)	7	(38.89%)	0	(0.00%)	6	(50.00%)	1	(6.25%)	1	(25.00%)
「未成年者」	1	(10.00%)	2	(11.11%)	0	(0.00%)	3	(25.00%)	0	(0.00%)	0	(0.00%)
「たばこ 条約」	0	(0.00%)	1	(5.56%)	0	(0.00%)	2	(16.67%)	0	(0.00%)	0	(0.00%)

	15		16		17		18		19		20		合計
「自販機」	1	(33.33%)	0	(0.00%)	1	(16.67%)	0	(0.00%)	0	(0.00%)	0	(0.00%)	20 (15.50%)
「広告」	3	(100.00%)	1	(50.00%)	1	(16.67%)	0	(0.00%)	1	(33.33%)	0	(0.00%)	24 (18.60%)
「流通」	1	(33.33%)	2	(100.00%)	2	(33.33%)	3	(42.86%)	2	(66.67%)	2	(40.00%)	43 (33.33%)
「未成年者」	1	(33.33%)	2	(100.00%)	2	(33.33%)	0	(0.00%)	0	(0.00%)	0	(0.00%)	16 (12.40%)
「たばこ 条約」	3	(100.00%)	1	(50.00%)	0	(0.00%)	0	(0.00%)	1	(33.33%)	0	(0.00%)	13 (10.08%)

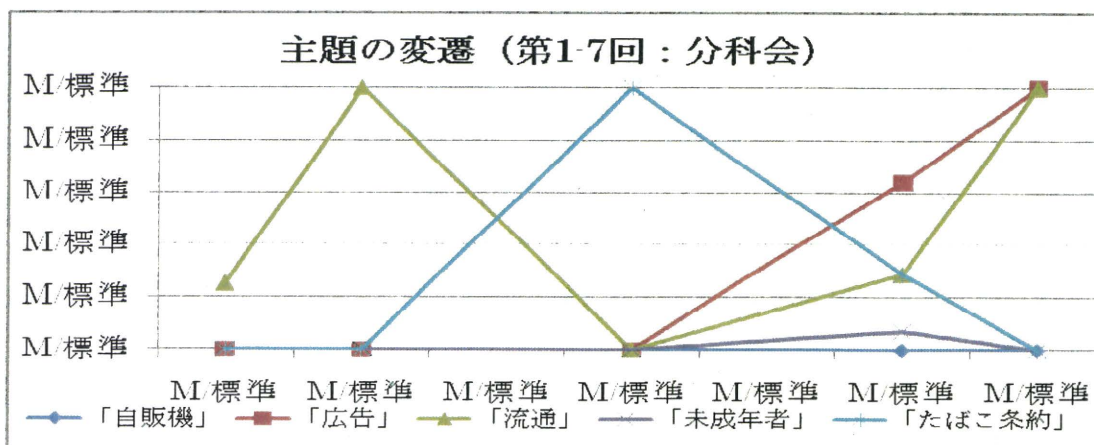
まず、図4で示された論点とテーマをめぐる時系列の変遷では、複雑なパターンが組み合わさっているために、明らかな特徴がつかみづらい。

図4 テーマや論点の変遷（全体）



そこで、第7回までとそれ以降で分割することで傾向を吟味する。第1回から第7回までを一括りとする、流通⇒たばこ規制枠組み条約⇒広告規制と論点やテーマが変遷してゆく様子が明確にされる。流通は表1に示されたように、たばこが「財政商品」とであると同時に未成年者を対象に「規制商品」とであるという販売をめぐるの特異性と国産たばこに対する製造独占と価格に対する規制などが議論された。次にたばこ規制枠組み条約に対する批准に関する論点、そして特に各国で議論となっていた「広告」及び「注意文言」に特化した形で議論が進んでいったことが明確化される。

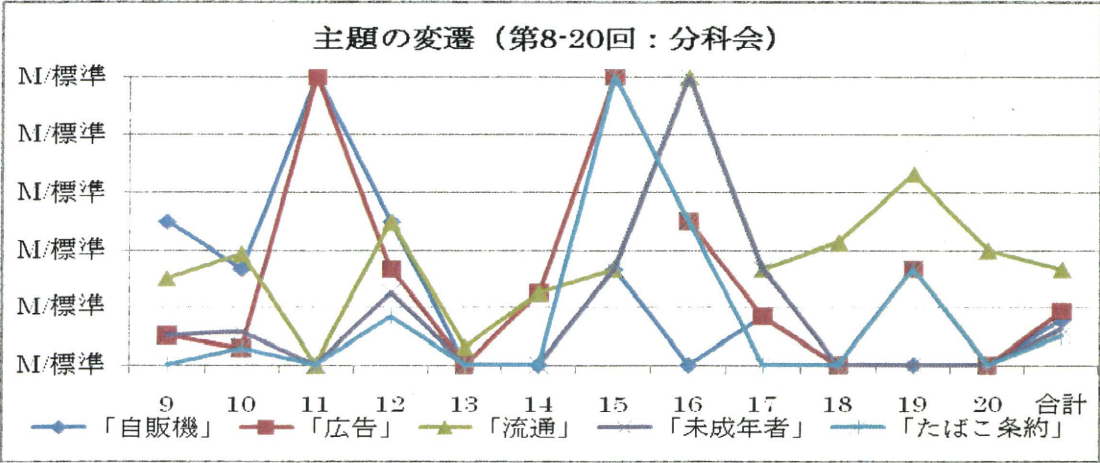
図5 テーマや論点の変遷（第1－7回）



ついで、第8回目以降のパターンを見ると、たばこ規制枠組み条約と「広告（注意文言を含む）」とが同じパターンを描くことが第14回目あたりで確認される。ここで条約関連の論点は一応終息し、ついでに自動販売機についての論点やテーマが第8回目あたりから浮き彫りにされてくる。具体的な政策対応として、平成16年3月8日財務大臣による「財務省告示第109号 製造たばこにかかわる広告を行う際の指針」及びタバコ規制枠組み

条約署名と締結に関する同年3月9日の閣議決定、それを受けて同年5月19日国会の承認がなされた。以上が審議会の議論を受けての政策対応である。

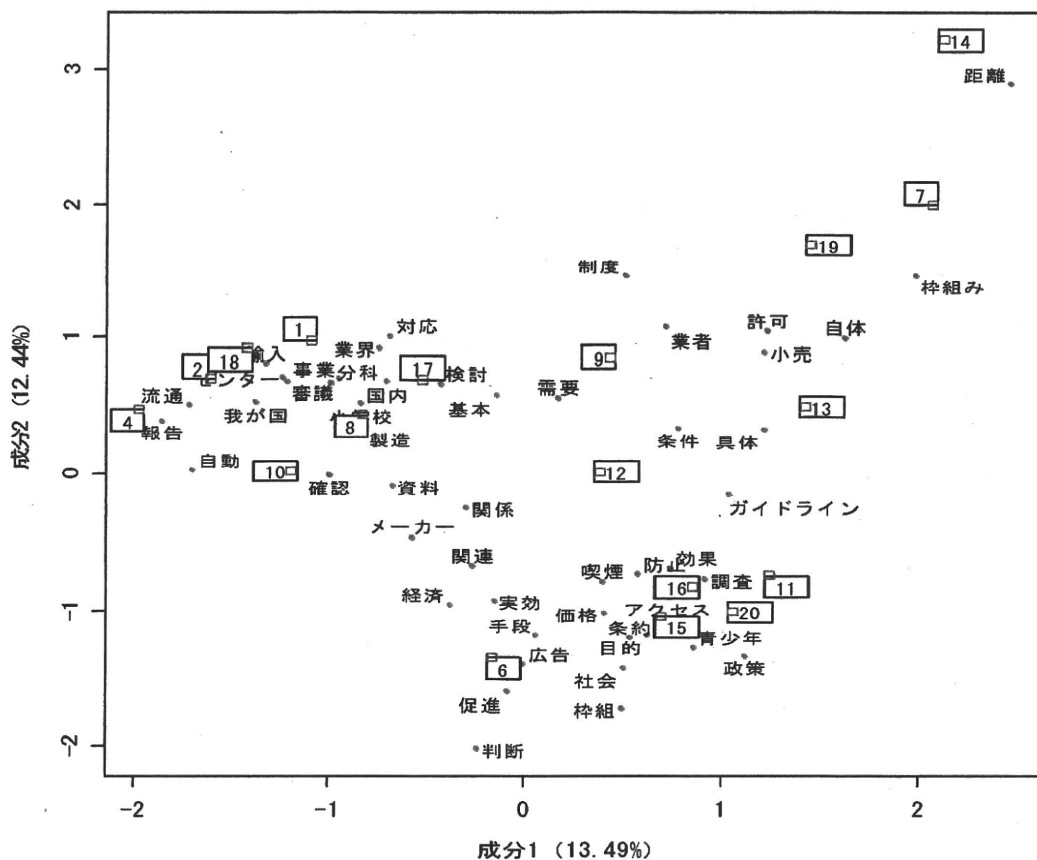
図6 テーマや論点の変遷（第8－20回）



この政策対応がなされた以降、たばこ規制枠組み条約関連の発言が激減し、「未成年」者のたばこへのアクセスに禁止をめぐっての議論が本格化する。注意すべきは「未成年」と「流通」が同一パターンで進み、次第に「流通」あるいは自販機をめぐる議論が前面に出ることになる。そしてその政策対応が平成20年4月10日「財理第1497号 成人識別自動販売機の導入を製造たばこの小売販売等の許可条件とすることについて」で沖縄を含む各財務（支）局長、日本たばこ産業株式会社への通達、同年7月1日より販売許可条件を成人識別自動販売機導入である。

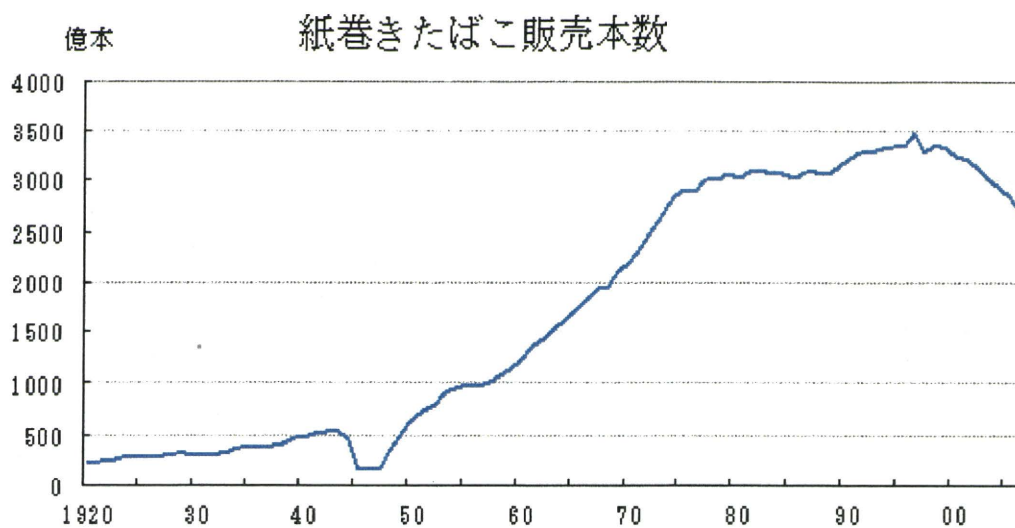
また対応分析を時系列の観点から描いた図7を見ると、審議会の論点やテーマは事務局によって一応連続するように設計されるが、例えば、「1」「2」「4」「8」「10」「17」「18」が一つの塊として審議内容規制商品であるたばこをめぐる論点やテーマに関する「一般的な枠」を議論するという共通性のある程度持っていたことが分かる。同様に「6」「11」「15」「16」「20」でも、「たばこ規制枠組み条約」をめぐる一つの共通性が観察される。そして「7」「9」「12」「13」「19」も「流通関連」をめぐる似通った発言内容であったことが見て取れる。

図7 対応分析による時系列分析



D. 結論

社会的規制のあり方に関して世論の後押しや理解が喫煙に関して大きく転換してきた。それが図8の紙巻きタバコ販売本数の長期トレンドに如実に表れている。この環境下で論点のウエイトは変化してきたが、販売方法の多様化や規制手段に対する認識の変遷もあった。健康に関する国民意識の高まりやマナーや公共の場での禁煙措置・分煙による生活様式に占める喫煙行動の諸制約などが、価格による経済的規制強化と相まってこのような長期トレンドを実現させた。しかし、審議会での議論が世論の後押しを受けた形で進んでいったことも確かであるし、その議論をもとに政策対応がなされてきたことの実事も忘れてはならない。この事実を注意深い統計的な実証研究によって、規制に関する審議会型の政策形成の在り方に関する指針を提示することが本稿の目的である。



出典：(社)日本たばこ協会「たばこ統計情報」

今後は「たばこ規制枠組み条約」締約国会合（COP4）での規制手段のガイドラインをめぐる動きや価格上昇によって発生する「不法取引」に関する国際協調政策などの重要性から、わが国が国際的に主導的役割を果たすためのガイドライン作りが必要である。

参考資料

抽出語	品詞	出現回数	抽出語	品詞	出現回数	抽出語	品詞	出現回数
まさに	副詞B	1	フリー	名詞	1	下	名詞C	1
まとめる	動詞B	1	ブランク	形容動詞	1	下がる	動詞	1
むしろ	副詞B	1	プライバシー	名詞	1	仮に	副詞	1
めった	形容動詞	1	プレ	組織名	1	加える	動詞	1
もう一度	副詞	1	ヘロイン	名詞	1	加速	サ変名詞	1
もつ	動詞B	1	ホームペー	名詞	1	加盟	サ変名詞	1
やすい	形容詞(非	1	ボーダー	名詞	1	家	名詞C	1
やたら	副詞B	1	ポリシー	名詞	1	果たして	副詞	1
やってくる	動詞B	1	マナー	名詞	1	会	名詞C	1
よく	副詞B	1	メキシコ	地名	1	会議	サ変名詞	1
より	副詞B	1	ヤミ	名詞	1	会合	サ変名詞	1
よろしく	副詞B	1	ライダー	名詞	1	会社	名詞	1
わざわざ	副詞B	1	ライン	名詞	1	回復	サ変名詞	1
わる	動詞B	1	ラック	名詞	1	改定	サ変名詞	1
アダム	人名	1	リ	固有名詞	1	海水	名詞	1
イス	名詞	1	リー	人名	1	外国	名詞	1
イデオロギ	名詞	1	レギュレー	未知語	1	害する	動詞	1
イメージ	サ変名詞	1	レファレン	未知語	1	概観	サ変名詞	1
インパクト	名詞	1	レベル	名詞	1	各社	名詞	1
ウェイ	名詞	1	ロシア	地名	1	拡大	サ変名詞	1
エネルギー	名詞	1	悪い	形容詞	1	確信	サ変名詞	1
ガル	人名	1	握る	動詞	1	確保	サ変名詞	1
キーポイン	名詞	1	扱い	サ変名詞	1	学校	名詞	1
キーワード	名詞	1	安心	サ変名詞	1	学識	名詞	1
ギャラ	名詞	1	安心	形容動詞	1	学者	名詞	1
クローズ	サ変名詞	1	暗証	名詞	1	活字	名詞	1
クロス	サ変名詞	1	間値	名詞	1	活発	形容動詞	1
グローバル	形容動詞	1	依存	サ変名詞	1	完結	サ変名詞	1
ゲート	名詞	1	困む	動詞	1	完璧	名詞	1
コマースヤ	名詞	1	意外と	副詞	1	感じる	動詞	1
コンセプト	名詞	1	意向	名詞	1	感心	サ変名詞	1
サーベイ	名詞	1	異論	名詞	1	感想	名詞	1
シフト	サ変名詞	1	移行	サ変名詞	1	換える	動詞	1
シミュレー	サ変名詞	1	維持	サ変名詞	1	環境	名詞	1
シンナー	名詞	1	違い	ナイ形容	1	監視	サ変名詞	1
スーパー	名詞	1	医学部	名詞	1	間違う	動詞	1
スる	動詞	1	医者	名詞	1	陥る	動詞	1
スコープ	名詞	1	育成	サ変名詞	1	韓国	地名	1
スタンス	名詞	1	一種	名詞	1	企業	名詞	1
ステップ	名詞	1	一緒	サ変名詞	1	基づく	動詞	1
スピード	名詞	1	一切	副詞可能	1	既に	副詞	1
スミス	人名	1	一体	副詞	1	期間	名詞	1
セミナー	名詞	1	一文	名詞	1	気がつく	動詞	1
ターゲット	名詞	1	一遍	副詞可能	1	析る	動詞	1
タイプ	名詞	1	一方	副詞可能	1	規則	名詞	1
タスポ	未知語	1	引きつける	動詞	1	規定	サ変名詞	1
チャンネル	名詞	1	引き続き	副詞	1	規範	名詞	1
テストケー	名詞	1	飲料	名詞	1	記憶	サ変名詞	1
ディスクレ	未知語	1	運動	サ変名詞	1	記述	サ変名詞	1
トーン	名詞	1	越	人名	1	起きる	動詞	1
ネック	名詞	1	円滑	形容動詞	1	起こる	動詞	1
ネット	名詞	1	援助	サ変名詞	1	偽造	サ変名詞	1
ハー	人名	1	沿岸	名詞	1	義務	名詞	1
バックアッ	サ変名詞	1	応じる	動詞	1	議事	名詞	1
パブリック	名詞	1	卸す	動詞	1	逆	名詞C	1

抽出語	品詞	出現回数	抽出語	品詞	出現回数	抽出語	品詞	出現回数
及ぶ	動詞	1	限定	サ変名詞	1	子供	名詞	1
究極	名詞	1	限度	名詞	1	指摘	サ変名詞	1
旧来	名詞	1	個々	名詞	1	施行	サ変名詞	1
協会	名詞	1	個人	名詞	1	視点	名詞	1
協同	サ変名詞	1	古い	形容詞	1	試算	サ変名詞	1
強硬	形容動詞	1	固有	名詞	1	資金	名詞	1
狭い	形容詞	1	後に	副詞	1	歯医者	名詞	1
狭義	名詞	1	後ろ	名詞	1	事情	名詞	1
興味深い	形容詞	1	後手	名詞	1	持たず	動詞	1
業種	名詞	1	語弊	名詞	1	時間	副詞可能	1
曲がる	動詞	1	誤解	サ変名詞	1	時期	副詞可能	1
筋	名詞C	1	公社	名詞	1	時点	名詞	1
近い	形容詞	1	公布	サ変名詞	1	次長	名詞	1
近づく	動詞	1	口	名詞C	1	示唆	サ変名詞	1
近畿	地名	1	口火	名詞	1	室長	名詞	1
近辺	名詞	1	好ましい	形容詞	1	実験	サ変名詞	1
近隣	名詞	1	工夫	サ変名詞	1	実行	サ変名詞	1
金額	名詞	1	広がり	名詞	1	実際	副詞	1
金融	名詞	1	広げる	動詞	1	実証	サ変名詞	1
区別	サ変名詞	1	広報	サ変名詞	1	取り組み	名詞	1
空調	名詞	1	拘束	サ変名詞	1	取り替える	動詞	1
軍事	名詞	1	構う	動詞	1	取り付け	名詞	1
刑罰	名詞	1	江川	人名	1	取り付ける	動詞	1
経過	サ変名詞	1	考え直す	動詞	1	取る	動詞	1
経験	サ変名詞	1	考慮	サ変名詞	1	取れる	動詞	1
経費	名詞	1	行き渡る	動詞	1	取扱い	名詞	1
経路	名詞	1	行く	動詞	1	手	名詞C	1
継続	サ変名詞	1	高める	動詞	1	手続	サ変名詞	1
計算	サ変名詞	1	高校	名詞	1	手続き	サ変名詞	1
警察庁	組織名	1	高齢	名詞	1	手当	サ変名詞	1
決まる	動詞	1	合わせる	動詞	1	種類	名詞	1
決定	サ変名詞	1	国際	名詞	1	酒	名詞C	1
結論	サ変名詞	1	国情	名詞	1	周	名詞C	1
月末	副詞可能	1	国籍	名詞	1	集中	サ変名詞	1
件	名詞C	1	今まで	副詞	1	住	名詞C	1
健全	形容動詞	1	今日	副詞可能	1	住所	名詞	1
嫌	形容動詞	1	恨みっこ	名詞	1	重金属	名詞	1
建てる	動詞	1	根本	名詞	1	重大	形容動詞	1
懸念	サ変名詞	1	差し引く	動詞	1	重点的	形容動詞	1
検証	サ変名詞	1	差す	動詞	1	縮小	サ変名詞	1
見合い	サ変名詞	1	再検討	サ変名詞	1	出せる	動詞	1
見込み	名詞	1	最近	副詞可能	1	出回る	動詞	1
見込む	動詞	1	済む	動詞	1	出費	サ変名詞	1
見識	名詞	1	材質	名詞	1	潤沢	形容動詞	1
見直し	名詞	1	罪	名詞C	1	処置	サ変名詞	1
見直す	動詞	1	作る	動詞	1	初步	名詞	1
見通し	名詞	1	刷新	サ変名詞	1	緒方	人名	1
見方	名詞	1	三村	人名	1	署名	サ変名詞	1
賢い	形容詞	1	参加	サ変名詞	1	諸国	名詞	1
元年	副詞可能	1	参入	サ変名詞	1	女性	名詞	1
原料	名詞	1	山王	名詞	1	徐々	名詞	1
減産	サ変名詞	1	仕事	サ変名詞	1	除く	動詞	1
現金	名詞	1	仕組み	名詞	1	除外	サ変名詞	1
言及	サ変名詞	1	仕組める	動詞	1	小学生	名詞	1
限る	動詞	1	始める	動詞	1	小中学校	名詞	1

抽出語	品詞	出現回数	抽出語	品詞	出現回数	抽出語	品詞	出現回数
少子	名詞	1	早とちり	サ変名詞	1	通達	サ変名詞	1
焦点	名詞	1	相反	サ変名詞	1	低下	サ変名詞	1
障壁	名詞	1	装置	サ変名詞	1	低調	形容動詞	1
上げる	動詞	1	側面	名詞	1	定義	サ変名詞	1
上手	形容動詞	1	即応	サ変名詞	1	提起	サ変名詞	1
場	名詞C	1	足りる	動詞	1	提言	サ変名詞	1
常識	名詞	1	続ける	動詞	1	提出	サ変名詞	1
譲渡	サ変名詞	1	続投	名詞	1	締約	サ変名詞	1
職員	名詞	1	存在	サ変名詞	1	的	名詞C	1
色々	副詞	1	村上	人名	1	適正	形容動詞	1
食品	名詞	1	多々	副詞	1	適切	形容動詞	1
食料	名詞	1	多角	名詞	1	適任	形容動詞	1
伸びる	動詞	1	妥当	形容動詞	1	徹底	サ変名詞	1
心から	副詞	1	打つ	動詞	1	徹底的	形容動詞	1
心配	サ変名詞	1	体制	名詞	1	撤廃	サ変名詞	1
新規	名詞	1	対象	名詞	1	店	名詞C	1
申込	名詞	1	怠り	名詞	1	店頭	名詞	1
申請	サ変名詞	1	態度	名詞	1	店舗	名詞	1
親和	サ変名詞	1	袋	名詞C	1	転換	サ変名詞	1
図る	動詞	1	貸す	動詞	1	田島	人名	1
推計	サ変名詞	1	貸与	サ変名詞	1	努める	動詞	1
推薦	サ変名詞	1	代金	名詞	1	東海	名詞	1
推測	サ変名詞	1	大丈夫	形容動詞	1	東大	組織名	1
数字	名詞	1	大騒ぎ	サ変名詞	1	当初	副詞可能	1
瀬戸内海	地名	1	大都市	名詞	1	答える	動詞	1
制約	サ変名詞	1	大半	名詞	1	頭	名詞C	1
性格	名詞	1	大分	地名	1	働きかける	動詞	1
成果	名詞	1	題	名詞C	1	働く	動詞	1
整理	サ変名詞	1	題名	名詞	1	動く	動詞	1
正	名詞C	1	単に	副詞	1	特殊	形容動詞	1
正しい	形容動詞	1	単純	形容動詞	1	特段	名詞	1
正式	形容動詞	1	単独	名詞	1	突き合やす	動詞	1
生じる	動詞	1	担保	サ変名詞	1	突出	サ変名詞	1
生活	サ変名詞	1	短い	形容詞	1	難しい	形容詞	1
精度	名詞	1	短縮	サ変名詞	1	日々	副詞可能	1
税制	名詞	1	弾性	名詞	1	日本語	名詞	1
摂	未知語	1	弾力	名詞	1	任意	名詞	1
撮取	サ変名詞	1	断面	名詞	1	認める	動詞	1
折角	副詞	1	知る	動詞	1	認証	サ変名詞	1
設備	サ変名詞	1	知見	名詞	1	年月日	名詞	1
先行	サ変名詞	1	地図	名詞	1	燃料	名詞	1
先進	名詞	1	地方	名詞	1	粘る	動詞	1
先般	副詞可能	1	遅い	形容詞	1	悩ましい	形容詞	1
選択	サ変名詞	1	蓄積	サ変名詞	1	把握	サ変名詞	1
選択肢	名詞	1	中	名詞C	1	破壊	サ変名詞	1
前年	副詞可能	1	中学	名詞	1	廃業	サ変名詞	1
前面	名詞	1	中学校	名詞	1	廃止	サ変名詞	1
全て	副詞可能	1	中学生	名詞	1	背景	名詞	1
全般	名詞	1	中心	名詞	1	肺がん	名詞	1
全面	名詞	1	中味	名詞	1	配当	サ変名詞	1
組合	名詞	1	注意深い	形容詞	1	買い入れ	名詞	1
組織	サ変名詞	1	調整	サ変名詞	1	売り出す	動詞	1
訴える	動詞	1	長年	副詞可能	1	売れる	動詞	1
訴訟	サ変名詞	1	長友	人名	1	白熱	サ変名詞	1
早く	名詞	1	直線	名詞	1	薄い	形容詞	1

抽出語	品詞	出現回数	抽出語	品詞	出現回数	抽出語	品詞	出現回数
薄まる	動詞	1	保	名詞C	1	連携	サ変名詞	1
薄れる	動詞	1	保有	サ変名詞	1	連合	サ変名詞	1
八王子	地名	1	補助	サ変名詞	1	漏れ	名詞	1
八木	人名	1	抱える	動詞	1	漏れる	動詞	1
発する	動詞	1	放棄	サ変名詞	1	論じる	動詞	1
発揮	サ変名詞	1	放置	サ変名詞	1	論点	名詞	1
発効	サ変名詞	1	方式	名詞	1	借	未知語	1
発行	サ変名詞	1	方針	名詞	1	嗜好	サ変名詞	1
発生	サ変名詞	1	法的	形容動詞	1	廣	人名	1
発売	サ変名詞	1	豊富	形容動詞	1			
抜粋	サ変名詞	1	望ましい	形容詞	1			
反映	サ変名詞	1	北村	人名	1			
反対	サ変名詞	1	本当	名詞	1			
販促	名詞	1	本当に	副詞	1			
範囲	名詞	1	毎回	副詞可能	1			
番号	名詞	1	膜	名詞C	1			
否	名詞C	1	万々	地名	1			
比較	サ変名詞	1	密接	形容動詞	1			
比重	名詞	1	民	名詞C	1			
費用	名詞	1	無粋	形容動詞	1			
微量	名詞	1	無理	形容動詞	1			
必ず	副詞	1	名前	名詞	1			
必ずしも	副詞	1	明らか	形容動詞	1			
病理	名詞	1	明瞭	形容動詞	1			
不可能	形容動詞	1	模様	名詞	1			
不公平	形容動詞	1	目	名詞C	1			
不十分	形容動詞	1	目途	名詞	1			
不全	名詞	1	目標	名詞	1			
不適切	形容動詞	1	目論見	名詞	1			
付く	動詞	1	問	名詞C	1			
付加	サ変名詞	1	矢崎	固有名詞	1			
付帯	サ変名詞	1	優れる	動詞	1			
普及	サ変名詞	1	予め	副詞	1			
部分	名詞	1	予想	サ変名詞	1			
部門	名詞	1	余り	副詞	1			
複雑	形容動詞	1	余り	名詞	1			
物	名詞C	1	余裕	名詞	1			
物事	名詞	1	余力	名詞	1			
物流	名詞	1	用語	名詞	1			
紛失	サ変名詞	1	要請	サ変名詞	1			
紛争	サ変名詞	1	要素	名詞	1			
文	名詞C	1	頼る	動詞	1			
文科	名詞	1	絡む	動詞	1			
文書	名詞	1	乱立	サ変名詞	1			
文部	名詞	1	利便	名詞	1			
聞かす	動詞	1	履行	サ変名詞	1			
平行	形容動詞	1	理論	名詞	1			
弊害	名詞	1	立てる	動詞	1			
別	形容動詞	1	流れ	名詞	1			
別に	副詞	1	流れる	動詞	1			
変	形容動詞	1	溜池	名詞	1			
変る	動詞	1	了解	サ変名詞	1			
変化	サ変名詞	1	歴任	サ変名詞	1			
変革	サ変名詞	1	列挙	サ変名詞	1			
変更	サ変名詞	1	練る	動詞	1			

あらかじめ除去された語句

「する」「いう」「ない」「ある」「思う」「なる」「話」「少し」「どう」「今」「塩」「聞く」「1
つ」「1 っ」「考える」「しれる」「先ほど」「ちょっと」「そう」「もう」「かなり」「できる」
「ない」「やはり」「やる」「よろしい」「ん」「出る」「場合」「わかる」「見る」「必要」「お
っしやる」「使う」「会長」「いろいろ」「お願い」「なさる」「いたす」「一つ」「言う」「人」
「2 っ」「2 っ」「いい」「なぜ」「ほしい」「機能」「教える」「持つ」「大事」「つく」「まず」
「意味」「考え」「高い」「入る」「いかが」「ずっと」「もし」「やっぱり」「可能」「出す」「状
況」「いい」「いく」「いつ」「ござる」「とる」「どんどん」「特に」「備蓄」「面」「7 月」「あ
りがとう」「いただける」「考え方」「最後」「書く」「申し上げる」「申す」「多分」「辺り」「か
かる」「つける」「もっと」「一応」「感じ」「今回」「何う」「全部」「努力」「当局」「踏まえ
る」「平成」「理解」「17」「30」「いただく」「いる」「お話」「これから」「つくる」「なるべ
く」「違う」「困る」「受ける」「上がる」「進める」「積極」「付ける」「変える」「方々」「立
場」「あたり」「あと」「おく」「なくなる」「みる」「もちろん」「やり方」「イオン」「意見」
「一般」「皆さん」「含める」「決める」「行う」「自己」「取組む」「色」「進む」「説明」「先
生」「前提」「低い」「動き」「配慮」「発言」「部品」「分ける」「方向」「容易」「理由」「両方」
「100」「11」「14」「3,000」「50」「500」「CIF」

参考文献

A. 邦語文献

金明哲 (2009) 『テキストデータの統計学入門』 岩波書店

城山英明・鈴木寛・細野助博 (2000) 『中央省庁の政策形成過程』 中大出版部

城山英明・細野助博 (2002) 『続・中央省庁の政策形成過程』 中大出版部

樋口耕一 (2004) 『計量テキスト分析の方法と実践』 大阪大学博士論文

細野助博 (2003) 「審議会型政策形成と情報公開の意義」『公共政策研究』3 号

細野助博 (2005) 『政策統計—公共政策の分析ツール—』 中央大学出版部

細野助博 (2006) 「社会的規制の公共政策—喫煙の規制効果分析」 中野守編『現代経済シス
テムの公共政策』 中央大学出版部 所収

細野助博 (2008) 「価格誘導政策のターゲットは誰か—価格弾力性をめぐる研究成果と今後
の政策展望」『公衆と衛生』 Vol. 72 No. 7, pp 41-45,

細野助博 (2011) 「日本型政策形成の「新しい」政治算術」 諏訪春雄編『アジアの中の日本
官僚—歴史と現在—』 勉誠出版 所収

B. 英語文献

Bernard Berelson: *Content Analysis in Communication Research*. Glencoe, Ill: Free Press
1952

Eric A. Feldman & Ronald Bayer: *Unfiltered; Conflicts over Tobacco Policy and Public
Health*. Harvard University Press 2004

W. Kip Viscusi: *Smoke-Field Rooms* Chicago Univ. Press 2002

Ⅲ. 研究成果の刊行に関する一覧表

研究成果の刊行に関する一覧表

書籍

著者氏名	論文タイトル名	書籍全体の編集者名	書 籍 名	出版社名	出版地	出版年	ページ
細野助博	日本型政策形成の「新しい」政治算術	諏訪春雄	アジアのなかの日本官僚―歴史と現在―	勉誠出版	東京	2011	89-116

雑誌

発表者氏名	論文タイトル名	発表誌名	巻号	ページ	出版年
安達順一, 望月友美子	都道府県薬剤師会における禁煙支援への取り組み等に関する調査 結果報告	日本薬剤師会雑誌	62(7)	43-47	2010
片野田耕太, 望月友美子, 雑賀公美子, 祖父江友孝	わが国における受動喫煙起因死亡数の推計	厚生 の 指標	57 (13)	14-20	2010
中村正和	特集「禁煙支援と歯周病予防」座談会	肥満と糖尿病	9(5)	659-675	2010
中村正和	メタボリックシンドローム対策、特定保健指導における禁煙サポート	成人病と生活習慣病	40(5)	502-506	2010
Nakashita Y, Nakamura M, Kitamura A, Kiya M, Ishikawa Y, and Mikami H	Relationships of Cigarette Smoking and Alcohol Consumption to Metabolic Syndrome in Japanese Men	Journal of Epidemiology	20(5)	391-397	2010
野村英樹	タバコ対策の推進における「空気」の役割―社会規範アプローチ適用の可能性	禁煙科学	4巻5号	1-5	2010

IV. 研究成果の刊行物・別刷

雄＝編

病理

るのか

官僚

史

新しい「政治算術

制度

態

現在

アジアのなかの
日本官僚

歴史と現在

アジアのなかの
日本官僚

歴史と現在



9784585230083



1921031045008

ISBN978-4-585-23008-3
C1031 ¥4500E

定価[本体4,500円+税]
勉誠出版

諏訪春雄
Suwa Haruo

＝編

勉誠出版

勉誠出版

日本型政策形成の「新しい」政治算術

——ボトムアップ型政策形成をめざして

細野 助博

はじめに

社会経済の活力を端的に示すのは経済成長率である。一九六〇年代の高度成長期は十％台で推移し、二度にわたる世界的オイルショックを経験した七〇年代を無事乗り切り、バブル期を経験した八〇年代でも先進国中でトップの四、五％の水準を維持した。ところがバブルがはじけた九〇年代以降、経済先進国の中で唯一のマイナス成長を記録し低成長から脱却できずに、最も経済が低迷する「経済劣等国」になり下がった。「日本異質論」まで登場するほどの先進国の中で驚異的な力を誇っていた往時の面影はすでにない。むしろ中国、インド、ブラジルなどの新興国の躍進ぶりに世界の人々の関心が集まる。そしてその新興国群の好調な経済からの恩恵も経済浮上に十分活かせていない。少子高齢社会、無縁社会の重い課題を抱え、GDP比一八〇％という常識を超える政府債務に苦しみ、その抜本的打開策を講じることができず政治的漂流を続けている(一)。

このような先進国の劣等生から脱却するための抜本的打開策の必要性も、その方向も、その実行の期限が迫っていることも大多数の国民は了解していても、その解決に向かつての一步が踏み出せず、不安感と閉塞感が日本に蔓延している。この状況こそまさしく日本再生の足かせとなる「公共政策課題」と位置づけておかしくない。課題解決に本腰を入れて国民各層が立ち上がれないこの病理の理由を、歴史の時間軸を辿りながら手探りで探します。そして必要となる「公共性」の視点を介して、病理打破の試みを国民各層がボトムアップで開始する必要性を指摘する。

一、配分の政策から縮減の政策へ

戦後日本から現在迄の時間の流れを、バブル崩壊前後の二つの期間に大きく分割して検討する。とても同じ日本とは考えられない。バブル崩壊前を歴史の目で辿ってみよう。長期安定政権の実現を主目的として結党した自由民主党を中心に、政治が展開する「五十五年体制」が軌道に乗り、高度成長を経て経済大国が国民の間で認識されだした頃、成長がもたらす果実を「どう配分すべきか」が政策の主要な課題となった。この課題に対して政官財の「鉄の三角形」という互恵的關係がうまく機能した。結果として多数の国民に支持される「成長とその果実の再配分」を而立させる、穏健で安定的な政治とそのアウトプットとしての政策が実現した⁽³⁾。ところで、「鉄の三角形」がうまく作動するのは、恩顧主義的互恵關係が維持されることが第一条件となる。自民党政権下での政治的安定のもとでは暗黙の契約でお

互い安心して取引できるので、政治的にも経済的にも取引費用⁽³⁾(政策課題の選択から政策決定に対する合意、そして政策の評価に至る一連のプロセスにかかる金銭的、時間的費用)は低下してゆき、内外環境の向上とともに経済成長の十分すぎる果実は、税収増加を通じて余裕のある財政政策を可能にした。この余裕が地域間の陳情合戦の勝者に贈られる公共事業として配分された。全国の地域が与党に対して協力的かどうかで色分けされる「政治地図」に従い配分される分かりやすさがそこにはあった。中央で互恵關係が強化された「鉄の三角形」は相似形で地方でも形成されていった。政権与党に対する忠誠度を競わせることで、公共工事などの競争配分的な政治的報酬は決定された。こうした巧妙な利益誘導型配分方式は、再選を金科玉条とする全国の与党政治家を「成功報酬」で潤した。成功報酬は金銭的、非金銭的なバックマージンを通して地方政治システムと後援会の維持拡大といった再選に向けての再投資に使われた⁽⁴⁾。この地域間競争は野党の介入を極力排除するように作用し、長らく「政権交代」の可能性を阻止してきた。

こうして確立される自民党長期政権を前提に、官僚システムは自らの政策理念と目標を実現すべく、立案し、法制化し、予算付けする過程で「族議員」という親衛隊を与党とのパイプ役としても活用した。卓越した専門能力や政治交渉力、あるいは全国的知名度を十分持ち合わせない大半の政治家は、再選回数で与党内での昇進を着実なものにした。念願の党二役や大臣ポストが獲得できる仕組みがここに出来上がった。昇進システムの本質を熟知する官僚達は、自らの省庁とある種の運命共同体を構成する彼らを再選させるため、全国に張りめぐらせた地方支部のネットワークを駆使した。再選を重ねること

とで個別省庁との関連が徐々に「特化した議員」を作ること、省庁の権益を増大し、維持するためだ。これが幹部級公務員（いわゆるキャリア官僚）を中心とする政治的官僚と族議員を中心とする官僚的政治家という極めて特殊な関係構築で、日本の政策形成を特徴づけることになった⁵。

さて「鉄の三角形」の一角である財界、業界、あるいは各種利益団体に目を向けてみよう。日本の経済政策はバブル崩壊で財政再建が待ったなしの時代まで、開発志向型の資源配分計画を主軸にしていた。戦後直後は傾斜生産方式、高度成長時代は設備投資への公的資金投入を、企業規模に比例させた。これとメインバンクシステム、親会社子会社関係に代表される系列システムとが相互補完しながら効果的な産業育成策を形成してきた⁶。いわゆる「開発官僚たちの夏」が、短期間のうちに日本を農業国から工業国に転換させた。やがて欧米に集中豪雨のように日本製品を輸出する「経済大国」に変貌させていった。財界や業界団体等民間部門はその集票マシーンを政権党に貢献するように提供して、補助金や保護的産業政策などの行政上の便宜供与を勝ち取ってゆく。国民民主党を標榜する自民党長期政権は官庁システムの助けを得て、国民各層に「広く薄く」既得権益の精密なネットワークを構築していった。この「福祉元年」、「生活大国」、「均衡ある国土の発展」というキャッチフレーズにそれが如実に表れている。

しかし日本という国家がドラスティックな変化を必要とする時代を迎えた時、こうした既得権益のネットワークが「変化への桎梏」となることを当時はだれも予想しえなかった。永田町も霞が関も、そして国民各層も社会経済の変化を受けて、ドラスティックな改革がいずれ必要になることを直感的には感じていた。しかし、既得権益を破壊する徹底した改革が実行に移されることはなかった。永田

町と霞が関にとって改革の政治的取引費用があまりにも大きいこと、二度の石油ショックを無事に乗り切ったこと、「ジャパンアズナンバーワン」と囃したてられ、八五年の「プラザ合意」後のバブル景気に浮かれたことも大きかった。いたずらに時間を空費し、改革の好機を逸してしまった。

こうしてグローバル化の波が高くなり潮目が変わったにもかかわらず、九〇年代に入ってから、国のかじ取りが定まらず、バブル崩壊後の「失われた二十余年」が始まる。中国などの新興国の躍進をしり目に、日本の経済成長力がどんどん低下していった。景気浮揚を図る財政出動の連続的な失敗が赤字財政を膨らませた。「財政規律立て直し」に路線変更をはかるため、配分の政策から削減の政策へとギヤチェンジを図らざるを得なかった。グローバル化による国際競争の激化で国内産業の空洞化が始まり、交通網の発達で全国を都市化し選挙基盤を激変させてゆく。社会インフラが整ってゆく過程で、地域の有権者は、義理人情に縛られた投票者から都会型の「是々非々」の合理的投票者に変貌してゆく。さらに「平成の大合併」は集票マシーンとしての地方議員の数を減らす効果も持った⁷。もともとミクロなレベルでは運動の主力となる若手が離反し高齢者だけに支えられる後援会組織ほど、集票マシーンとしての能力が弱体化していった。

どのような政策変更でも必ず所得再分配効果をもつ。配分から削減へのドラスティックな政策転換は政策を受容するステークホルダー（利害当事者）の間に非協力ゲームを展開させることになる。業界団体の離反が自民党で相次いだことにその兆候を見る。ここに「鉄の三角形」に代表される互恵的協力ゲームは終焉を迎え、自民党という長期政権党は力を失ってゆく。そして小泉政権以降は本格的なガバ